
第六回 日本放送作家協会賞



社団法人 日本放送作家協会

「日産スター劇場」 N T V



放送開始 昭和三十八年十一月二十三日。本年五月十四日で百三十回をむかえた。
企画制作 日本テレビ
提供 日産自動車株式会社
プロデューサー 津田昭
ディレクター 池田義人、川上衆司、野島宗昭ほか。
数多い秀作の中で、評判になったものに安倍徹郎作「裏口からどうぞ」有島一郎、左幸子主演 橋田寿賀子作「はなとハナ子」山田五十鈴主演などがある。(写真は布施博一作「花嫁候補がやって来た」の出演者たち)

正統喜劇への冒険に

キノトール

現代の日本人は喜劇を軽視する。笑うことの社会的意義についてまるで無知だ。他人を笑ったり自分が笑われたりすることを「ハシタナイ」または「無礼」だと云う。武士が支配階級になって以来の悪癖である。笑いの価値を否定することはファシズムに通じることなのだが、その危険に気づかぬ人が多い。
だから現在、喜劇はなかなか正しい評価をえられない。にもかかわらず「日産スター劇場」は、勇敢に喜劇をとりあげ、安易に流れることなくこの五月十四日で一三〇回をむかえた。いまやまさに、喜劇の必要性をひろく日本のテレビ大衆に再確認させつつある。こういうことはめったにない。企画者、スポンサー、全スタッフの努力に敬意を表したい。

「日本の謎」 毎日放送

企画制作 毎日放送
提供 住友金属工業
放送開始 昭和四十年七月六日

監督 奈良本辰也(立命館大教授)
小松 左京(作家)
多田道太郎(京大人文科学研究所)
尾崎 秀樹(文芸評論家)
構成 足立 卷一(詩人)
足立 卷一他 ナレーター
森本宏 テーマ音楽 武満徹 代表作品 「飛鳥―石たちの呪文―」「かくれ日蓮」「埴輪」など。(写真は「飛鳥―」の古代石彫)



日本の土壌にせまる

岩間 芳樹

「日本の謎」は、埋没しつつあるさまざまな日本の文化遺産を含めて、日本または日本人の持つ謎の部分を捉えて、それを根源にまで掘り下げ、解明しようとしている。かつ、そうした未知の世界に、現代的視点により光を与えようとするアングルは貴重であり、極めて意欲的なテレビ・ドキュメント番組である。その映像化の創意、日頃の研究、日本全土に及ぶ取材活動の成果は勿論、地方一民間局が、この種の番組を創作し継続放送することの努力は賞揚に価する。

こんにち、知的かつ野心的な放送番組企画の低調さが論議されるおりから、「日本の謎」が提示した進取性は得難く、また興味深い。向後に更に期待したい。

岡山尚幹 フジテレビ



岡山尚幹は昭和四年東京生。昭和二十八年早大理工学部大学院卒、文化放送入社。昭和三十八年フジテレビ開局と同時に同局に転じ現在に至る。日フィルシンフォニーコンサート、ベルリンオペラ中継など音楽番組を手がけてきて、一昨年「ミネージャックフェア64」の放送開始以来同番組の演出を担当。授賞対象となった「ミネージャックフェア65」のスタッフは次の通りである。

演出 岡山尚幹 柴野広之
美術 妹尾河童 照明 谷川富也 技術 増永昌夫 構成 保富康午 松本重美 牛島孝之。制作局 フジテレビジョン。提供 シオノギ製薬。
(写真は「ミネージャックフェア」の一シーン)

ユニークな味

菅原卓

本年度の演出賞は、ひとつの発見でもある。だからといって、定説のごとき年間の名演出と呼ばれるものを、否定してかかったわけではない。それらに対して、十分な敬意を払いながら、なおかつ、この発見を尊重し、ここに定着したのは、選者であるわれわれが、身近かにいる専門家でもあるからだ。つまりこの賞に対しての期待をこめたのである。

演出などという仕事は、専門家以外の者に理解も発見もできるわけのものではない。

岡山、柴野両君が当面の演出者であるが、その秀拔さは、複雑なタレント群に、その落ちついた真価を発揮させ、美術、照明の独自性をプラスし、30分にユニークな味を出してくれるところにある。

長門裕之



長門裕之は昭和九年、沢村国太郎、マキノ智子の長男として京都に生まれる。弟に津川雅彦、妹に加藤勢津子がいる。名作といわれる阪妻の「無法松の一生」に敏雄少年で出ている。立命館大学卒業後、昭和二十八年宝塚映画に入社、三十年日活に転じ、「七つボタン」でデビューした。三十六年南田洋子と結婚。映画「にあんちゃん」でブルーリボン賞、「古都」で毎日映画コンクール賞受賞。

生かされた市民像

大垣肇

いつも、いきいきしている。常に自分の最高のものを、提供しようと努力している。脚本のつかみ方がたしかで、役づくりが行きとどいている……等、等。これが審査委員会で得票のポイントだった。

もし演技に計算型と直感型があるとするなら、長門氏は前者の代表だろう、とかねて私は思っていた。その計算も、算術的ではなくしばしば微積分的である。氏における卓抜な論理性は、たまたまものする随筆類にも筋がねとなって光っていた。だが「マジメ人間」その他で氏は更に一飛躍して、ついに計算の斧跡をとどめぬ域にまで……これはちとオーバーだが、とにかく生きた日本人、市民像の造型に成功したといえるだろう。好漢、へんに自重なんかしないで、益々盛大にハッスルしてもらいたい。

小山明子



小山明子 昭和十年、千葉県市川市に生まれる。神奈川県立鶴見高校卒。三十年松竹大船に入り、「ママ横を向いて」でデビューした。三十五年大島渚と結婚、三十六年創造社をつくる。映画では「日本の夜と霧」「飼育」「彼女だけが知っている」に出演、テレビでは「検事」「悪銭」、現在は「愛の一家」(NHK)に出ている。

意欲的な姿勢

岡本愛彦

テレビ俳優としての長いキャリアを通して着実に成長をとげ、現在数多くの番組を通して堅実で安定した演技を示している。

殊に昨年度のNHK大阪制作「うなぎ繁昌記」TBSテレビの「父子鷹」に於ける常に安定した誠実な演技と、毎日テレビ「源氏物語」TBS「お母さん」等に於ける意欲的な演技の創造は、ともすれば安易に流れやすいテレビ俳優の演技の中できわ立った存在であった。

決して派手な存在ではないが常にテレビ演技に意欲的な姿勢をもち、而も誠実な人柄とスタジオマナーをもって仕事に当る小山明子氏の受賞は、凡百のテレビタレントに警鐘を乱打する意味でも極めて必要なことであり、強く推薦する次第である。

「お笑い三人組」

関係者

N H K

十年目の花道

阿木翁助

「お笑い三人組」が十年つゞいて、ようやく番組を終了した。一口に十年というが、毎週一回のドラマを、十年間欠かず事なく継続したのは容易な事でない。

もちろんNHKだから出来たことではあるが、スタッフと出演者の根気に敬意を表する。こういうお笑い番組では、大阪方がとかく強力だが、東京の孤ルイをまもりつづけた努力も特筆にあたいしよう。

目下テレビは寄席芸の花ざかりである。このブームの中に、番組の幕をとじることは、お笑い番組の十年選手として満足であろう。スタッフと出演者は、気分を新たにこの波に乗ってもらいたい。

この賞は、そのためのささやかなはなむけである。



昭和三十年十一月、ラジオでスタートしたが五十回目(三十一年十一月)からテレビに移った。途中三十四年四月から九月までマゲものをはさんだこともある。主なる出演者は江戸家猫八、一竜斎貞鳳、三遊亭小金馬に、楠トシエ、桜京美、音羽美子などである。このほか中堅以上の喜劇人でこの番組にゲスト出演をしていない人は無いといわれる。

脚本は、外遊中の二、三ヶ月を除き、すべて名和青朗の筆になる。(写真は「お笑い三人組」の出演者たち)

「FM名作劇場」 NHK

制作 NHK芸能局第一制

作部

放送開始 昭和四十年四月七日

NHK開局四十周年を記念して企画された番組で、旧名作を懐しむ感傷ではなく、放送も古典を持つまでに成長したその古典を持つ場として、現代的立場に立ってかかっての名作にとりくんでいる。

第一回の森嶋外原作、久保田万太郎脚色「りよと九郎右衛門」以来、五月十八日現在ですでに五十六本目を数える。(写真は「FM名作劇場」のスタッフ)



荒野への最初の鉄

江上照彦

放送芸術という言葉は広く用いられているが、実はまだ確立しているとは言えない。一回こっきりの放送と、かなり文化価値の永続をたてまえにする芸術とが、そう簡単に結び付くはずはないからだ。芸術とは、しょせん、風雪にたえて生き残る、つまり、時の流れの中で、選択され繰り返し鑑賞されることから成立するはずのものであるから、従来、この過程を欠く放送が芸術の不毛を嘆かれてきたのも、無理はない。ところで「FM名作劇場」はこうしたしきたりを破って、言うなれば、荒野を沃野にかえようとして打ちおろされた最初の鉄であり、やがてその豊かな実りがテレビ畑にも及ぶであろうことを期待させるが故に、この企画の意義をきわめて高く評価したのである。

輝くトリオ

伊馬春部

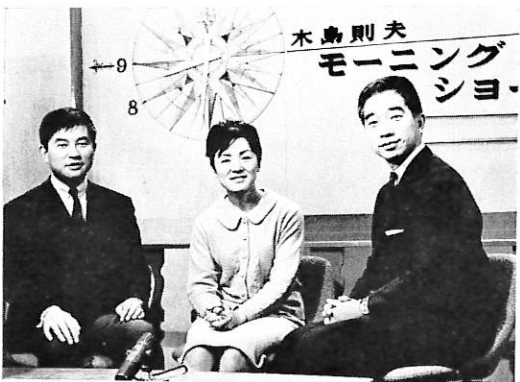
朝ごとに接する木島さんの顔に、私は「危険信号」の頃のかれの表情をだぶらせてひとりたのしむ奇習があるが、ラジオの時代にも「街頭録音」や「放送演芸会」などの活躍は目ざましき限りだった。直接のスカウトの原因は「生活の知恵」だが、いうならば「モーニングショウ」の素地を、福岡―熊本―東京とNHK大通りを直進した時代、すべて培養してきたわけである。

栗原さんもNHK、井上さんもRKB毎日と共にアナウンサー。三人ともアナ出身ということがあるからなるブレイキとなっているところのこのトリオの性格は、今後もいよいよ磨きがかかるであろうが、ニューズショウの宗家たるもの、油断は大敵——これを忘れないで頂きたいと望んでおく。

ともあれあの三人のかもしれない「和」は、特別賞にまことに相応しい輝くトリオである。

「木島則夫モーニングショー」 NET

司会者トリオ



昭和三十九年四月一日スタートし、本年二月半ばで五〇〇回となった。

木島則夫は大正十四年東京生まれ、明治学院大卒業後、二十三年NHKに入り、「生活の知恵」などに活躍、三十九年フリーとなって現在に至る。栗原玲児は昭和八年東京生まれ、慶応大学中退後、アナウンサーとしてNHKに入り、その後博報堂に転じ、モーニングショウの司会者となる。井上加寿子は昭和七年福岡生まれ、筑紫中央高校卒、二十八年R・K・B毎日にアナウンサーとして入り、三十二年結婚のため退き上京、フリーとして活躍中。

「文明堂豆劇場」

文明堂



企画 株式会社文明堂銀座店
制作 協同広告株式会社
昭和三十八年、オーストラリアより来日したナンシー・アンド・ノーマンパーク夫妻の試演のうちから三種類の踊りを選び、そのうちの一つ「カンカン踊り」を採用して白熊に踊らせたもの。音楽は「天国と地獄」をピアノ曲に編曲し、子供のコーラスを用いている。一年間使用後、放送を中止して、新たに製作したCMに替えたが視聴者から「白熊カンカン」の再放送を要望する投書が殺到したため再び使用している。子どもや親たちから親しみをこめた投書は、現在もあとを断たない。

愛されるCM

玉川 一郎

今度CM賞を受賞した文明堂のCMは、昨年最後まで残り、「アイデア」と賞を争ったが、結果はアイデアの新しさに一步をゆずったのであった。

ところが、今年もこのCMは「オリンピック」と決戦投票を行なうという鏖せり合いまでおこなってしまったのである。

去年は古かったものが、今年は新しくなったのか、という質問があれば、新しい古いということとは別に、みんなに愛され親しまれるという、CMには「珍らしい」性格が他を制したものであるとお答えする。

サンキュー賞

「お天気ママさん」

TBS

目立たぬ場所での努力

阪田 寛夫

四十年むかしのラジオ開局以来、紋切り型の天気予報が何十万回、何百万回放送されてきたことでしょう。

さいきんは天気についての専門家がテレビに登場するケースも多いようですが、せっかく文人を起用しても話し方がまずくては、何だか予報まで信用できないような気がしません。「お天気ママさん」は天気については素人で、「話し方」の専門家なのですが、この人から雨が降ると言われるとレインコートを持って出かけたくなるからフシギである。

へんにべたつかないで、明日の天気を伝えるという目的を適確に果たしながら、しかもさわやかな後味を残す番組という所に、私は楽屋裏の大へんな努力を感じとるので。両ワクのアニメーションもよろしく、こういう目立たぬ場所での努力にサンキューと申し上げます。

昭和三十八年六月、東京放送のスタジオを使って始めた。

もと同局のアナウンサー大沢嘉子を起用し、四十年十月日本気象協会の一隅をスタジオに現在の形式に変えた。演出は清田正和。月曜から土曜までの毎日6時55分から5分間放送。提供はキンビール。(写真は「お天気ママさん」に出演中の大沢嘉子さん)



受賞者一覧

日本放送作家協会賞

第1回

- 企画賞 「日本の素顔」(NHK)
演出者賞 せんぼんよしこ(NTV)
男性演技者賞 松村達雄
女性演技者賞 黒柳徹子
スポンサー賞 東京芝浦電気株式会社
" 東芝商事株式会社
TRG賞 和田勉(NHK)
サンキュー賞 文化放送本社受付一同
" 舘野淑子(TBS受付係)

第2回

- 企画賞 「兼高かおる世界の旅」(TBS)
演出者賞 山田智也(ABC)
" 大坪都築(文化放送)
男性演技者賞 ハナ肇とクレージーキャッツ
女性演技者賞 池内淳子
スポンサー賞 株式会社資生堂
" エスピー食品株式会社
TRG賞 「娘と私」番組関係者(NHK)
サンキュー賞 東京新聞ラジオテレビ欄

第3回

- 企画賞 中川忠彦(NHK)
演出者賞 田甫一郎(NHK)
" 橋本信也(TBS)
男性演技者賞 芦田伸介
女性演技者賞 大空真弓
スポンサー賞 三共株式会社
TRG賞 「夫婦百景」スタッフ(NTV)
サンキュー賞 東京放送劇団
" ニッポン放送効果班
特別功労賞 吉田秀雄

第4回

- 企画賞 大映株式会社テレビ室

- 演出者賞 八橋卓(NET)
" 山口淳(NHK)
男性演技者賞 藤田まこと
女性演技者賞 中村メイコ
大衆芸能賞 古今亭今輔
CM作品賞 セイコー企業CFの製作スタッフ
" スズキ自動車工業CFの製作スタッフ
スポンサー賞 近畿日本鉄道株式会社
TRG賞 梅本重信(NHK)
サンキュー賞 「チロリン村とクルミの木」
関係者一同

第5回

- 企画賞 「風雪」(NHK)
演出者賞 久野浩平(RKB毎日)
" 「シルバーグレーの空間」演出グループ(ニッポン放送)
男性演技者賞 今福正雄
女性演技者賞 南田洋子
大衆芸能賞 牧伸二
TRG賞 「おかあさん」(TBS)
" 「山本富士子アワー」(フジテレビ)
CM作品賞 「アイデアル」
サンキュー賞 「オヤカマ氏とオイソガ氏」
(文化放送)

久保田万太郎賞

第1回(39年)

- 毛利恒之「十八年目の召集」
寺山修司「犬神の女」

第2回(40年)

- 茂木草介「兎追いし」「ニューヨークの日本人」「逃亡者」

第3回 該当なし